

## ○事業見直しには厳しさが必要

9月議会の決算委員会でも様々な問題点が指摘されています。議員になってからの一年余りの各議会を通じて言えば、繰り返し複数の議員から取り上げられている問題もあります。しかし、見直しは進みません。民間だったら許されないのではないかとの思いが募ります。

筆頭は競輪事業。平成15年度の赤字(注:「繰り上げ充用」=翌年予算の前借という形をとっている)ので表向きは赤字とは言っていない)は約1億円で3年連続の赤字です。事業の内容を見ていくと経営努力は限界に達して今後上向く要素はほとんど見つからないのに担当者の回答は「もう少しやらせていただきたい」。

保養施設の運用も見直すべきです。旧3市がそれぞれ持っていた保養施設を引き継いでいる為、5箇所もの施設(福島県南郷村2軒、千葉県天津小湊、新潟県六日町、群馬県新張村)を保有しています。こんなにたくさんの施設を保有する必要があるでしょうか。最も採算の厳しい「南郷ふるさとの家」では維持管理費の1/4しか利用料収入がありません。

それから地味な話題かもしれませんが、交通災害共済も、現在掛け金350円ととても安くて嬉しい制度ですが、特別会計にも関わらず、保険料収入と給付支払いがトントンぐらいで、制度運用にかかる費用は全て一般会計からの持ち出しです。

もちろん何でも市民負担が少ないに越したことはない訳ですが、せつかく350円の掛け金に喜んでいる市民も、裏を返せば市の借金を膨らませることになっていると知ったらどうでしょう。他政令市では700円ぐらいが相場といいますが、350円でなければ制度の意味がないという人がどのくらいいるか疑問です。むしろ実態にあった見直しこそ必要ではないでしょうか。

現在市には「改革推進室」という部署があって、事務事業評価や外部評価を進めたり、市の出資法人の全面見直しを行ったりといった作業を進めています。これらの活動に期待するとともに、事業の見直しには常にトップの判断が重要ということを強調しておきたいと思います。